

代表挨拶

子ども虐待防止ながのオレンジリボン代表
小松 卓也

『子ども虐待防止ながのオレンジリボン』の活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。多くの皆様に支えられこの時期を迎えることができました。あらためてお礼申し上げます。

今年も11月の児童虐待防止推進月間に合わせて、県内各地で『児童虐待対応ダイヤル189』を広めるための啓発イベントを行政・企業・ボランティアさんなどの協力により実施することができました。思い起こせば県外の「オレンジリボンたすきリレー」の視察に行き、右も左も分からない状態でスタートした本イベントもその形を変化しつつ8回目を迎えました。

今年から団体名を『ながの子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会』から『子ども虐待防止ながのオレンジリボン』に変更し、コロナ過でも柔軟に啓発が行えるようにと従来のたすきリレーにこだわらず、様々な形で各地域に合わせた啓発を行いました。しかしながら、子育てを取り巻く環境は新型コロナウイルスの感染拡大や物価高騰などにより深刻さを増すばかりで、フードバンクなどのニーズも増えたように感じます。

すべての家庭や子どもの社会的孤立を防止し、予防的観点から身近な相談機関や人に相談でき、手を差し伸べられる関係性、社会の仕組み作りを目指し、一人ひとりが手を取り合い様々な場所や立場から地域の子育てについて一緒に考えていけたらと思います。ぜひ引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。一年間、大変お世話になりました。



後援団体よりメッセージ

長野県知事
阿部 守一 様

子ども虐待防止ながのオレンジリボンの皆様には、日頃より児童虐待防止のための活動にご尽力いただき、感謝申し上げます。特に、11月の児童虐待防止推進月間におきましては、コロナ禍の中、実行委員会の皆様や協賛団体の皆様の御協力により、県内各地で児童虐待防止推進のための活動が展開されたことに重ねて感謝申し上げますとともに、皆様の熱意に心より敬意を表します。

私も同月間において、「広めよう!189チャレンジ」の趣旨に賛同し、児童相談所虐待対応ダイヤル「189」の周知と、子どもたちの笑顔があふれる社会になってほしいという願いを込めて、昨年度に引き続き、県庁見学を訪れた小学生189人以上とグータッチを行い、子ども達の笑顔を守っていきたくと決意を新たにしました。

さて、令和3年度に県内の児童相談所に対応した児童虐待相談は2,651件となり、令和2年度より微減したものの、高止まりの傾向は継続しております。この数値については、児童虐待の深刻さを表す一方で、地域の皆様が児童虐待の課題に目を向け、社会全体で解決すべき課題であるとの意識が広がってきたことの表れとも考えております。

今後も、児童虐待に苦しむ子どもやその保護者の社会的孤立を防ぎ、誰一人取り残さない社会を実現し、全ての子どもたちが笑顔で未来に夢と希望をもって生きていける長野県にしていきたいと思っておりますので、引き続き皆様の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。



県庁見学を訪れた小学生
189人以上とグータッチ